

# 令和5年度 第2回 丹波篠山市環境審議会 会議録

記録：農村環境課

## ■開催日時

令和5年11月13日（月） 19時00分～21時00分

## ■開催場所

四季の森生涯学習センター東館 大会議室

## ■出席者

委員 14名  
事務局 4名  
委託事業者 2名

## ■欠席者

委員 6名

## ■傍聴者

0名

## ■会議の要旨

以下のとおり

### 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

### 3. 報告事項

#### (1) 地球温暖化実行計画（区域施策編）素案の策定について

事務局

（計画素案と概要版に基づき説明）

副会長

（素案本編について）

P.12 の温室効果ガス排出量について、2020年度は2013年度比で23.6%減であるが、P.13、P.14のグラフからはどの分野でも減少しているように読み取れない。

委託事業者	<p>産業部門を例に挙げると、省エネや燃料転換の進展により、折れ線グラフで示した製造品出荷額の増加に対して、棒グラフで示した温室効果ガス排出量が減少していることを表している。総合的に割合を集計した結果、表記の減少率となった。グラフ内に凡例を記載するよう対応する。</p>
A 委員	<p>P.16 の二酸化炭素の森林吸収量の推計が 2013 年から 2020 年で大きな変動が無いように見える。森林として大きな変化が無く吸収量の増加が見込めない一方で、二酸化炭素排出量の削減目標数値の設定には疑問を感じる。取組方針にも森林整備の推進にあたって具体的な手段の記述がなく吸収量を設定されているため、実行すべき取組を明確にしてほしい。</p>
委託事業者	<p>2030 年の中期目標は具体的な数値から算出しているが、2050 年の吸収量はイメージである。取組としては、森林以外にも農地に炭素を貯留する施策があるため、これらを組み合わせで削減目標に近づけると考えている。</p>
B 委員	<p>P.19 の 2 つの表で共通して温室効果ガス削減量の数値はあるが、一方にのみ吸収量の内訳があり表の整合がわからない。</p>
委託事業者	<p>2030 年度温室効果ガス排出削減量の数値がイコールであるが、その他の表現はわかりやすいように工夫する。</p>
C 委員	<p>P.20 の再生可能エネルギー導入目標のイメージグラフ中にある、再生可能エネルギー比率の 16%増加目標は、国の目標に紐づいているという理解で良いか。</p>
委託事業者	<p>そうである。丹波篠山市では太陽光発電の導入が主力となるため、国の計画にある太陽光発電の導入比率を抜粋した中で一番大きい数値を目標設定した。</p>
C 委員	<p>良い目標値の設定方法であると思う。2018 年から太陽光発電量の伸びが鈍化しているため、今後は FIT 以外の導入数値を拾っていきける仕組みを検討していく必要があると思う。</p>
委託事業者	<p>家庭用、事業用ともに今後、追跡方法等を検討する。</p>

D 委員	2018 年以降太陽光発電量がほぼ横ばいとなっている現状を鑑みると、目標達成に向けて導入の規制を緩和しなければ達成が難しいか。
事務局	現在、市として規制の緩和は考えていない。指摘のように達成が難しいという面もあるが、それに近づくよう可能な限り高い目標を設定したいと考える。
副会長	景観を維持しながら太陽光発電を普及させる具体的な方法を考えているのか。
事務局	条例上、直置き型の導入が難しいため、主力となる屋根置き型太陽光の普及・啓発に注力する。
副会長	住宅用太陽光発電の普及率を伸ばすということか。
事務局	住宅用が主軸になると思うが、工場など非住宅においても建築確認の際の提言や、重量制限等が課題となる古い建物についても助言をして普及率を伸ばすと考えている。
副会長	市民に分かりやすいよう、普及の拡大に向けて具体的に何に取り組むのか、計画書に記載した方が良い。
E 委員	住宅用太陽光発電装置はおよそ 10 年の耐用年数と思うが、その後 10 年サイクルで考えた場合、ほかの再生可能エネルギーの普及も視野に入れるべきと感じた。市として太陽光の普及に先行投資しても、長期の削減目標の達成は遠いと思う。
事務局	市は太陽光発電の導入が主力であり、ほかの再生可能エネルギー導入はポテンシャルがなく現状では見込めない。 現段階では 2030 年の目標を主軸にしており、2050 年に向けては国や県も具体的な計画が明確ではなく、今後の技術革新にも期待をるところである。
F 委員	再生可能エネルギー導入と景観維持はいずれも重要性があるため、中間を取って計画するべきと考える。また、ほかの条例や計画との整合性を取りながら、組織としての計画性が必要と考える。

事務局	<p>目標値の設定は市のまちづくり条例等を考慮し、直置き型の発電設備や伝建地区など設置できない地区を除き、屋根置き型の設備導入を基本に目標設定している。</p>
F 委員	<p>目標達成に向けて、一部の地域のみ負担がかかる計画では良くない。他人事ではなく市内の誰もが担うべき役割であり、市全体としての理想図を考えた方がいいと思う。</p> <p>目標数値も重要であるが、丹波篠山らしい景観を維持しながら、市全体で環境を良くするためにできる取り組みの発想が必要と考える。</p>
G 委員	<p>P.22 で示した 2050 年の丹波篠山市の姿では、次世代自動車について EV 系しか記載が無く、P.24 に記載の次世代自動車との整合性がない。2050 年まで EV 系のみを目標にするのか整理が必要である。</p>
委託事業者	<p>重点的な取組は、2030 年までの当面の重点施策を示しているため、2050 年のイメージと合わせてわかりやすいように工夫する。</p>
G 委員	<p>P.29 の農業に関する記述がいずれも水稲のみとなっている。他の耕作についても表現ができないか。</p>
委託事業者	<p>検討して対応する。</p>
副会長	<p>(概要版について)</p> <p>「環境みらいパートナー事業者登録制度」は、市独自の取り組みであり、丹波篠山らしさを取り入れた計画として本編でも紹介や報告を入れてもいいと思う。制度の現状や課題の改善、登録のメリットなども示し、事業者へのヒアリングも行っていくと良いと思う。</p>
事務局	<p>本編 P.30 で紹介している。現状のメリットは、登録事業者同士の情報交換や、ホームページ等での紹介によるイメージアップであり、実務的な連携等の検討が今後の課題である。</p>
副会長	<p>せっかくの制度なのでもっと掘り下げて紹介して、現状や課題を数値化した方が良い。また、大企業や中小企業で取り組み</p>

方が違うと思うのでそれらも示すと良いと思う。

会長

計画全体が、本来は地域の実情に合わせた数値を積み上げるのが理想であるところ、国の統計値等を按分しているため直感的にわかりにくいと感じる。国の数値を市なりに落とし込み、取組方針を示してみんなで実行しようというのが現計画であるが、解釈が難しいのが課題と感じる。

また、P.20には太陽光発電の設置に関連した市の条例について明示をしておくべきと考える。そのうえで目標設定したというスタンスは重要である。

最後に、この場で言い切れなかったことや意見がある場合は、11月15日（水）を期限に、意見提出シートやメールで事務局へ提出をお願いする。その後、意見を反映させた計画は、完成版として委員へ周知する。

#### 4. 審議事項

##### 令和5年度の環境みらい部施策事業についてのワークショップ

事務局

（ワークショップの進行について説明したのち、環境基本計画の5つの分野について、それぞれの課題や今後の取り組みについて意見交換が行われた。）

会長

事務局は、各委員から出された意見を各事業担当につなぎ、事業の推進を促すようお願いする。

#### 5. 閉会